

生活習慣病と脳卒中

川口市立医療センター

脳神経外科

おぎの
荻野

あきよし
暁義



脳神経外科は、脳腫瘍、脳卒中などの脳神経に関連した疾患や頭部外傷に対して、カテーテル治療や外科的治療を行う診療科です。日々多様な患者の治療を行っていますが、その中で最も多い疾患が脳卒中です。

脳卒中とは、脳出血やくも膜下出血、^{のうこうそく}脳梗塞など、脳血管に関連した疾患の総称です。脳内の細い血管が破裂すると脳出血、太い血管にできた動脈瘤が破れるとくも膜下出血、血管が詰まると脳梗塞になります。どの疾患も突然の片まひ(片側の手足が動かなくなる)や意識障害などの症状が現われ、多くの場合手術が必要になります。さらに、治療をしても後遺症が残る可能性が高く、寝たきりになる原因の第1位がこの脳卒中です。

そのため、日頃からの予防がとても大切です。脳卒中を引き起こす要因には高血圧や糖尿病、高脂血症などの生活習慣病が挙げられますが、初期段階では無症状であることが多く、健診などで医師から指摘されても放置しているかたがしばしば見受けられます。中でも高血圧は脳卒中だけでなく心臓につながる血管や心筋の疾患に対する最大の危険因子ですが、血圧管理を行うことで脳卒中の発症リスクを3割以上減らすことができます。同様に、糖尿病や高脂血症も厳格に管理を行うことで、2割程度の脳卒中リスクの軽減が期待できます。多量の飲酒(日本酒約2合以上)や喫煙によって脳卒中発生リスクが高くなることは周知の事実です。できる限り控えていただければと思います。病気になることが一番ですが、脳卒中の初期症状である「片まひ・しびれ」「ろれつが回らない・言葉が出ない」「立てない・歩けない・ふらふらする」「視野が欠ける・ものが二重に見える」「突然の激しい頭痛」などが見られた場合は救急要請するなどすぐに受診することが大切です。当センターは、市内で唯一の脳卒中センターコア施設に認定されており、24時間体制で脳卒中の緊急対応が可能ですので、万が一発症した際には全力で治療を行います。